事業評価シート（平成25年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	生活道路整備事業	
事業担当	土木部　道路整備課	
事業種類	● ハード　　○ ソフト	
総合計画の位置付け	'03	基本目標3　人と自然が調和した、やすらぎのあるまち
	'02	②〈住みごこち〉 人にやさしい居住空間をつくる
	'02	2 身近な生活環境を充実する
根拠法令等		
対象・受益者	市民	事業期間
委託、協働	【委託:　3セク・財団　企業　NPO　その他 】【協働:　】	

目的・目標	事業の概要
生活に身近な道路の安全性・利便性の向上が図られています。	車両のすれ違いや歩行者の安全性を確保するため、道路の拡幅や隅切りの整備等道路を改良します。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	目標				
	実績				
活動指標②	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	目標				
	実績				
成果指標①	指標名	生活道路整備進捗率			単位 ％
	説明・算定式	平成28年度までの整備累計（2,082m）に対する当該年度までの整備累計の率			
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	目標	32	46	59	73
	実績	34	52	65	
成果指標②	指標名				単位
	説明・算定式				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	目標				
	実績				

進捗状況	①：予定どおり	
	遅れている理由	

平成25年度の主な取組と成果

土屋41号線、土屋24号線、大神3号線等の路線を整備し、生活環境の安全性・利便性の向上を図りました。

平成25年度の検証結果	A：成果があがった

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他	行政が実施主体となり、市民ニーズに対応するため、道路改良を行います。生活道路を整備することで、快適な生活環境が図れることから必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
	有効性	□ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他	生活道路を拡幅することにより、交通の利便性を図り生活環境の有効性を高めることが必要です。	● 高 ○ 低
	妥当性	■ 事業の目的、対象、内容 □ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制（人員配置、業務分担） ■ その他	市民生活に欠かせない道路整備であり、安全で快適な生活環境の確保が必要です。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	□ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） □ その他	道路整備のコスト削減に取り組みます。	○ 高 ● 中 ○ 低

今後に向けた課題の分析

生活道路の拡幅は地域住民からの整備要望が多く、自治会や地権者の協力を得て事業を進める必要があります。

3. 年度別事業内容・決算額

（単位：千円）

		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
事業内容		工事、用地買収・補償	工事、用地買収、補償	工事、用地買収、補償	生活道路の整備
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	20,737	0	0	0
	起債	82,000	53,000	117,600	88,000
	その他　特財	0	1,137	0	0
	一般財源	11,915	46,972	31,916	7,381
事業費（A）		114,652	101,109	149,516	95,381
執行率（%）		82.66	94.11	78.88	
内訳	職員（人）	2.70	1.85	1.60	1.65
	再任用（人）	0.00	0.10	0.10	0.10
人件費（B）		21,881	15,169	13,058	13,237
フルコスト（A+B）		136,533	116,278	162,574	108,618

4. 今後の事業展開（担当課としての提案）

平成27年度の取組方針

現地調査を行い、地区の利便性や危険箇所等で緊急性を要する路線等優先順位を定めて整備を進めます。

課長コメント

市民の生活環境に直接関連する事業であり、積極的な道路整備を行うことにより、地域住民の住環境の向上が期待できます。